

## 第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

### A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

デイリー・ジーザス・ニュース # 122

#### 2. 奇跡その22：イエスは耳の聞こえない男と多くの人々を癒す

MK 7.31-37; MT 15.29B-31

31 それからイエスはティルスの地方を去ってシドンに上り、それからガリラヤ湖に下り、デカポリス地方の真ん中に行かれた。

マタイ15章29節から31節 イエスは山に登り、座られた。すると大勢の群衆が、足の不自由な人、目の見えない人、体の不自由な人、口のきけない人、そのほか多くの者を連れて来て、イエスの足元に置いた。イエスは彼らを癒された。人々は、口のきけない人が話し、体の不自由な人が治り、足の不自由な人が歩き、目の見えない人が見えるようになるのを見て、驚いた。（マタイ15章29節から31節）

32 そこに、人々が、耳が聞こえず、ほとんど話すこともできない人をイエスのもとに連れて来て、その人の上に手を置いてくださるようイエスに願った。

33 イエスは、その人を群衆から離れて、ひとりだけ連れて行き、指をその両耳に差し入れ、唾を吐いてその人の舌に触れ、34 天を仰ぎ、深いため息をつきながら言われた。

「エバタ！」（「開けよ！」という意味の命令）。

35 すると、その人の耳は開き、舌は解け、普通に話せるようになった。

36 イエスは、だれにもこのことを話さないようにと彼らに命じられました。しかし、イエスが話せば話すほど、彼らはますますこのことを言い続けました。37 人々はすっかり驚き、感嘆のあまり、「神はすべてを良くしてくださった。耳の聞こえない者を聞こえるようにし、口のきけない者を話せるようにしてくださったのだ」と言いました。

MT そして彼らはイスラエルの神に栄光を帰した。

=====

注：私たちは「混合テキスト」の原典福音書を次のように上付き文字で識別します：マタイ = MT、マルコ = M、ルーケ = L、ヨハネ = J、使徒行伝 = A。この「上付きID」は引用文の冒頭に挿入され、別の上付き文字が現れるまでその聖書書を識別します。また、イエスの言葉は赤のイタリック体で表記されます。旧約聖書からの引用は大文字で表記されます。

コンテキストダイジェスト

位置	ガリラヤ湖の南東にあるデカポリス地方
----	--------------------

## 第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

### A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカポリスへの帰還

タイムライン	5月または6月（27月または28月）
イエスの生涯の背景	第5段階：イエスの異邦人地域への撤退
	A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへ そして異邦人デカポリスに戻る
タイトル	2. 奇跡その22：イエスは耳の聞こえない男と多くの人々を癒す

コメント：

ティルスでシロ・フェニキア人の女性の娘を癒した後、イエスは異邦人地域での旅を続け、フェニキアの海岸沿いをさらに40キロメートル北上し、港町シドンに至りました。福音書はそこで何が起きたのかを何も語っていません。ティルスとシドンは現在のレバノンに位置しています。

イエスは次に南東へ、ヨルダン川の東側、ガリラヤ湖の下流の地へと旅をされました。この地域は「デカポリス」、あるいは「十の都市」として知られていました。シドンからデカポリスまでは、約130キロメートル（80マイル）の長旅でした。カペナウムからティルス、そしてシドンへ、そして最後にデカポリスへと戻る長い道のりを徒歩で歩きながら、イエスは弟子たちに多くの時間を教えられました。

おそらくこの時は5月下旬か6月頃で、その砂漠地帯の気温は華氏90度から100度（摂氏32度から38度）に達していました。そこでイエスは涼しい山地へ行き、そこにも大勢の群衆が集まりました。

ゲラサを短期間訪れ、悪霊の軍団「レギオン」を退治しました。北方へと姿を消した後、この地域に再び戻ってきたイエスは大きな話題を呼び、健康な人々が病気や障害、あるいは悪霊に取り憑かれた愛する人をイエスのもとに連れて来て宣教を行う機会を与えました。

群衆は、多くの盲人が見えるようになり、足の不自由な人が歩き、口のきけない人が話し、悪霊にとりつかれた人が解放されるのを見て、驚きのあまり息を呑みました。デカポリスは異邦人の領土であったため、「彼らがイスラエルの神に栄光を帰した」ことは非常に重要な意味を持ちます。なぜなら、ヤハウェは彼らの異教の神々の一つではなかったからです。文脈から判断すると、マタイはこの言及によって、彼らがイエスを賛美する際に、実際には「イスラエルの神」を賛美していたことを明確に示しています。マタイはイエスの神性に目を向けさせようとしていたのです。

マタイは多くの人々の癒しを強調して記述しました。一方、マルコはイエスが多くの人々を癒した代表的な例として、一人の人の癒しに焦点を当てました。

マルコの記述には、いくつか注目すべき点があります。イエスが男を脇に呼び寄せ、群衆の見物人の目から離れて、個人的に彼に仕えられたことに注目してください。イエスは男のプライドとプライバシーへの欲求に同情し、一人の人間として彼を愛されました。また、イエスはわざわざ男の耳と舌に触れられました。こ

## 第5段階：イエスの異邦人地域への撤退

### A. イエスの最初の北方への旅、ティルスとシドンへの旅、そして異邦人のデカボリスへの帰還

れもまた、深い思いやりの表れでした。最後に、イエスは命令を発して彼を癒されました。イエスは、宇宙を創造したように、男にも言葉を話させました。

イスラエルの神に栄光を捧げるとともに、群衆はイエスへの賛美のもう一つの側面を繰り返し唱え続けました。 「主はすべてをよくしてくださつた」。この言葉は「主はすべてをよくしてくださる」とも訳されます。この言葉の真の意味を一つの英語の文で捉えることは困難です。人々は「よくする」あるいは「よくする」を表現するために、ギリシャ語の完了形（デカボリスはギリシャ語圏でした）を用いました。これは、イエスが癒しの働きにおいてすべての人を完全に癒しただけでなく、彼らが永久によくなるようにそれを行われたことを意味していました。

イエスの癒しは一時的な現象ではありませんでした。人々は完全な状態に入り、その状態を維持しました。何かをその瞬間にうまく行うことは一つのことですが、何かを非常にうまく行い、それが常に完璧であり続けることは、別の、はるかに偉大なことです。イエスが人々に与えた永続的な肉体の完全さは、イエスがご自身を信じるすべての人に与えてくださる永遠の命という永続的な性質を象徴していました。

応用：

イエスは、話せるようになった人に、一人ずつ仕えるために脇へ行きました。同じように、イエスは私たち一人一人に仕え、交わりなさいます。イエスはすべての人を愛しておられるので、私たち一人ひとりを愛し、一人一人と個人的な方法で、一対一で関わってくださるのです。なんと素晴らしいことでしょう。

きりで過ごす時間を持つ必要があります。毎日そうすることが大切です。三位一体の神の前で、二人きりで礼拝し、祈り、聖書を読むこと…それは私たちにとって神聖で、かけがえのない特権です。

毎日神様と二人きりで過ごすための計画はありますか？どのように取り組んでいますか？

神と二人きりで過ごす時間を充実させるために何ができるでしょうか？